

社会技術研究開発事業
令和4年度研究開発実施報告書

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

シナリオ創出フェーズ

「性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関
をハブとするCAC(Children's Advocacy Center)モデル
の構築」

田上 幸治

(神奈川県立こども医療センター、
臨床研究所 部長)

溝口 史剛

(前橋赤十字病院、小児科 副部長)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 目標	2
2 - 2. 実施内容・結果.....	4
2 - 3. 会議等の活動.....	8
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況.....	9
4. 研究開発実施体制	9
5. 研究開発実施者	10
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など.....	12
6 - 1. シンポジウム等.....	12
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など.....	12
6 - 3. 論文発表	12
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	12
6 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等.....	12
6 - 6. 知財出願	13

1. 研究開発プロジェクト名

性虐待などの被害児が心身の回復につながる医療機関をハブとするCAC(Children's Advocacy Center)モデルの構築

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 目標

(1) 目指すべき姿

本プロジェクトが取り組む社会課題は、子ども虐待、特に性虐待の被害にあった児への取り組む仕組みを変えることである。児童相談所への虐待相談件数は年々増え、2020年には20万件を超えている。その中で、性虐待は全体の1.1%となっている。欧米国ではすべての虐待の中で、性虐待の割合は10%弱、米国でも8.5%（2016年）であり、日本では被虐待児が開示できず放置されたままの状態があると思われる。その原因として、性虐待は歴史的にもっとも見つけにくい虐待であるが、日本では被害を受けた子どもに優しい環境で対応できる仕組みがないことも原因である。後に精神疾患や成人病の罹患率や自殺率も高いこの被害児を早く救わなければならない。

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。子どもに対する虐待、搾取、及びあらゆる形態の暴力を撲滅する。あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

(2) 研究開発プロジェクト全体の目標

● 系統的全身診察の普及プロジェクト

系統的全身診察については、警察/検察や児童相談所の認知も不十分で、対応できる医療機関も限られている。この技法を医療機関に積極的に広めるための枠組みを整備するために、性虐待対応の研修プログラムを新たに作成する。性被害にあった児に系統的全身診察を行う医師がいない地域での人材育成を行う。系統的全身診察の普及グループが研修プログラムを作成し、各地域で研修を行う。

● MDT 促進プロジェクト

虐待対応において、多機関連携（MDT）は欠かせない。しかしながら、医療、司法、児童相談所の役割は異なり、MDTは課題の一つである。これらを解決するためには、お互いの役割を理解し、協力していくことが必要である。医療がハブになり虐待の医学的な勉強会を開催し、多機関連携を促していくことが可能である。研究代表者の田上は、警察/検察、裁判官、児童相談所、子どもの権利擁護弁護士、医療者と『かながわ子ども虐待勉強会』として2016年から年2回、神奈川県立こども医療センターで開催してきた。MDT促進事業グループがこの勉強会の資料を編集し、乳幼児の頭部外傷（Abusive Head Trauma: AHT）、虐待による熱傷、傷痕の虐待診断、ネグレクトによる衰弱、虐待による骨折などの勉強会資料を作成する。CACモデルネットワークグループの各病院が主催者となり、警察/検察、児童相談所、医療者などを集め、子ども虐待についての勉強会を行う。

● CAC モデル事業

子ども支援センターつなぐ（神奈川県立こども医療センター）で性虐待を受けた児の聞き取り、診察をワンストップで行う症例を重ね、CACモデル事業として課題を抽出す

る。KGIは子どもに優しい環境で、被害を受けた児が聞き取り、診察をワンストップで行い、心神の回復に向かうことである。

● CAC ネットワーク (Hospital association for CAC: HACAC 連絡協議会)

性暴力救援・性虐待に積極的に取り組んでいる医療機関で情報交換を行いながら、これらの施設でのCACモデル構築について意見交換を行い、情報発信していく。

2 - 2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

研究開発期間中(24ヶ月)のスケジュール

研究開発項目	初年度 (2022年10月 ~2023年3月)	2年度 (2023年4月~2024年3月)	最終年度 (2024年4月 ~2024年9月)	以降 研究開発期間終了後の展開	
系統的全身診察の普及 プログラム作成 診察グループ 研修活動 診察グループ	→	→			有料で継続
CACモデル事業 一次モデル事業 CACグループ 二次モデル事業 CACグループ	→		→		他の地域で継続
MDT促進事業 プログラム作成 MDTグループ 地域でのMDT MDTグループ	→	→			他の地域で継続
CACネットワーク HACAC連絡協議会 HACACグループ	学会発表	学会発表	→		啓発活動や施設基準の評価

(2) 各実施内容

今年度の到達点①：系統的全身診察の普及

性虐待が疑われる子どもを診察する際には「頭先从から爪先まで」外性器肛門を含めた包括的な全身診察を行う必要がある。「系統的全身診察」と呼ばれている。診察の目的には、①性虐待被害を受けた子どもに、身体的に問題がないことの保証を与え安心させる、②性虐待被害を受けた証拠となりうるあらゆる損傷所見を記録し、法医学的検体採取を行う、という大きく2つある。

性虐待の診察のプログラムの作成に当たって、Joice Adams、Nancy Kelloggらが監修したオランダの業者が開発したe-Learningがとてもよくできている為、これを翻訳して使う方向としている。現在、溝口医師が著作権や利用方法について交渉している。その教材をChild First Japan山田不二子医師、沖縄中部病院産婦人科三浦耕子先生のご意見を頂戴しながらプログラムを作成する。2023年9月以降に関東周辺の会場にて有志で開催し、プログラムの修正をする。その後、HACACの施設で研修を行う。

実施者：溝口 史剛（前橋赤十字病院小児科・副部長）

今年度の到達点②：CACモデル事業

子ども支援センターつなぐは2019年本邦で二番目に設立されたCACである。子ども病院である神奈川県立こども医療センター内の面接室を利用し、性虐待を受けた児の聞き取り、診察、心のケアを子どもに優しい環境でワンストップ対応する。司法面接に関しては、理化学研究所 仲真紀子氏（研究開発プロジェクト「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」研究代表者）に協力を得ている。心のケアについては、日本フォレンジックヒューマンケアセンター 片岡笑美子氏（研究開発プロジェクト「性暴力を撲滅する社会システム構築に向けた、早期介入とPTSDケア迅速化の人材育成および全国展開に向けた体制づくり（協働実施者）」の助言をいただきながら、神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科とも相談。

NPOつなぐでは2022年度に司法面接を3件行った。今後、司法面接の件数の増加が予想されるため、つなぐではこども医療センター内に待合室、司法面接室、バックスタッフルームを整備した。2023年1月にはその新しい面接室で司法面接を行った。

実施者：田上 幸治（神奈川県立こども医療センター 臨床研究所・部長）

今年度の到達点③：MDT促進事業

虐待の対応においてMDTは、米国でCACが設立された理由からもわかるように最も重要といってもよいが、同時に最も難しい課題である。各機関の役割は異なり、各機関の他の機関のニーズと各機関が提供できる技術シーズは異なる。それ故、お互いが協力しながら子どもの最善の利益のために役割を果たす必要がある。お互いが各機関の可能な役割、不可能な役割を理解する必要があるが、はじめに医療が虐待の医学診断について児童相談所や司法に説明する必要がある。虐待には身体的虐待から心理的虐待まで様々で、重症度も様々である、しかしながら司法が関与するような虐待事例は、重度な身体的虐待や性虐待であることが多い。この場合、医学的診断が虐待診断に重要である。また、医療は子どもの代弁者としての役割はあるが、中立的な立場であるため虐待に係る様々な機関の中でハブ（ネットワークの中心）になりやすい。それ故、医療がハブになり虐待の医学的な勉強会を開催し、多機関連携を促していくことが可能となる。

この多機関連携の勉強会の資料としてスライドの資料を作成した。「乳幼児の頭部外傷 (Abusive Head Trauma: AHT)」、「傷、アザの見方」、「虐待による熱傷」、「ネグレクト」、「虐待による骨折」のパワーポイントを作成し、HACACのメンバーと共有した。
実施者：田上 幸治（神奈川県立こども医療センター 臨床研究所・部長）

今年度の到達点④：CACネットワーク

④-1 CACネットワーク（Hospital Association of CAC; HACAC連絡協議会）での情報交換。子ども虐待に積極的に取り組んでいる協力施設と二か月に一度WEBでの情報交換会を行った。

④-2情報発信

2022年12月に開催された日本子ども虐待防止学会学術集会で、各機関の現状や課題について合同で発表した。

公募シンポジウムS-56

性虐待の被害児が受ける系統的全身診察はどこで受けられるのか

発表者：田上幸治、毎原敏郎、森里美、川口真澄

実施者：田上幸治（神奈川県立こども医療センター 臨床研究所・部長）

（3）成果

今年度の到達点①：系統的全身診察の普及

当初はプログラム作成について、医療機関向け虐待対応プログラムBEAMSを作成したメンバーで行う予定としていたが、このメンバーは小児科医で虐待対応に精通している医師が中心であるため、性虐待の対応となると産婦人科の医師との協働が必要であるとの意見があり、日本産婦人科医会の医師と相談し沖縄中部病院産婦人科三浦耕子先生を紹介いただき、メンバーに加わることを了解いただいた。

性虐待の診察のプログラムの作成に当たっては、Joice Adams、Nancy Kelloggらが監修しオランダの業者が開発した「e-Learning」を補助教材とすることを決め、今後プログラム全体を作成する。

今年度の到達点②：CACモデル事業

NPOつなぐぐでは、2022年度にクラウドファン্ডで資金を集め、神奈川県立こども医療センター内に新しく司法面接室を作った。

2023年1月にはその新しい面接室で司法面接を行った。

今年度の到達点③：MDT促進事業

この多機関連携の勉強会資料を作成した。「乳幼児の頭部外傷 (Abusive Head Trauma: AHT)」、「傷、アザの見方」、「虐待による熱傷」、「ネグレクト」、「虐待による骨折」のパワーポイントを作成し、HACACのメンバーと共有した。

今年度の到達点④：CACネットワーク

④-1 CACネットワーク（Hospital Association of CAC; HACAC連絡協議会）での情報交換。子ども虐待に積極的に取り組んでいる協力施設と二か月に一度WEBでの情報交換会を

行った。

④-2情報発信

2022年12月に開催された日本子ども虐待防止学会学術集会で、各機関の現状や課題について合同で発表した。

公募シンポジウムS-56

性虐待の被害児が受ける系統的全身診察はどこでうけられるのか

発表者：田上幸治、毎原敏郎、森里美、川口真澄

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

今年度の到達点①：系統的全身診察の普及

概ね、予定通りに進んでいる。

次年度、7/1の学会に合わせてメンバーを招集し会議で大まかな内容を提示する。

2023年9月までにプログラムを作成し、メンバー内で実施し、振り返る。

今年度の到達点②：CACモデル事業

2022年度 NPOつなぐでは、CACの活動を活動の基盤としながら、国、行政、地域の支援者団体との多機関多職種連携を促進し、「司法面接」「系統的全身診察」「付添犬」「子どものアドボケート」「中長期伴走支援」など、実践と研究を並行して行った。

研修事業については、2021年度から継続して「虐待被害児支援・司法面接研修」を実施したほか、教職員向け「子どもの話を聞く」研修、ピアレビュー研修、ボランティア養成研修など新たな研修を実施し、子どもの権利擁護がより広く、着実に進むよう、支援者養成等に努めた。

司法面接については、全国的には増加しているものの、欧米に比べればまだまだ少なく、本来のCACモデルである、聞き取り、診察、心のケアをワンストップで行う活動は軌道に乗っているわけではない。NPOに相談される症例は児童相談所などが係るケースは少ない為、今後は児童相談所とも連絡を取りながら、子どもの最善の利益を図るべく活動していく必要があるだろう。

今年度の到達点③：MDT促進事業

CACモデルはMDT無くしては成立しない。そのため、各地域のなかでMDTが促される活動が必要である。すでにある地域もあるが、今後は各地域での虐待についての勉強会開催へ向け取り組んでいく。

今年度の到達点④：CACネットワーク

各地域では状況が大きく異なる。虐待について児童相談所の仕組みや警察に仕組み、医療機関の仕組みは異なるし、またそれらの機関連携状況も大きく異なる。その中で、多機関連携を促すこと、CACモデルを構築することは手法において大きなバリエーションがでる。CACネットワークでは各地域の状況を情報共有しながら、また、地域へ訪問して多機関連携の会議に参加し話を聞く必要があると考える。

④-1 CACネットワーク (Hospital Association of CAC; HACAC連絡協議会) での情報交換。子ども虐待に積極的に取り組んでいる協力施設と二か月に一度WEBでの情報交換会を

行なう。

④-2情報発信

日本子ども虐待防止学会学術集会で、各機関の現状や課題について合同で発表する。

2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2022. 9. 15	HACAC	Web	沖縄中部病院
2022. 11. 17	HACAC	Web	成育医療研究センター
2022. 12. 10	HACAC	福岡	学会シンポジウム打ち合わせ
2023. 1. 19	HACAC	Web	今後の会議の進め方について
2023. 3. 16	HACAC	Web	系統的全身診察プログラム

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

系統的全身診察の普及

プログラム作成後、HACACの医療機関で開催し、その後、全国での研修を実施していく。

MDT促進事業

今後、各地域のHACACの医療機関で開催し、その後、全国での研修を実施していく。

4. 研究開発実施体制

(1) 系統的全身診察の普及グループ

グループリーダー：溝口史剛（前橋赤十字病院小児科、副部長）

役割：プログラム作成と研修活動

概要：Child First Japan山田不二子医師の協力を得ながら性虐待対応の研修プログラムを作成する。この研修事業を全国で行う。

(2) CACモデル事業グループ

グループリーダー：田上幸治（NPO子ども支援センターつなぐ、代表）

役割：第一次CACモデル事業の遂行

概要：子ども支援センターつなぐでは、神奈川県立こども医療センター内の面接室を利用し、性虐待を受けた児の聞き取り、診察、心のケアを子どもに優しい環境でワンストップ対応する。第一次モデル事業として、症例を重ねる。

(3) MDT促進事業グループ

グループリーダー：田上幸治（神奈川県立こども医療センター総合診療部、部長）

役割：勉強会プログラムの作成と各地域での勉強会の実施

概要：児童相談所や警察/検察に子ども虐待の医学的診断について講義する資料を作成する。協力施設において、MDTでの子ども虐待の勉強会がない地域で勉強会を開催していく。

(4) CACネットワークグループ

グループリーダー：田上幸治（神奈川県立こども医療センター総合診療部、部長）

役割：様々な地域との連携をはかる。

概要：医療機関に併設されたCACもしくはCACを目指す活動を行っている組織を中心にCACネットワーク（HACAC連絡協議会）を設立した。HACAC連絡協議会として、二か月毎にZOOMで会議を行い、各機関の・Child Protection Team（CPT）の運営方法、工夫、これまでの課題と改善点、今後の課題・CAC設立/運営状況・多機関多職種との連携状況について情報共有を行っている。

5. 研究開発実施者

系統的全身診察の普及グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職
毎原敏郎	マエハラトシロウ	尼崎総合医療センター	小児科	科長
田上幸治	タノウエコウジ	神奈川県立こども医療センター	総合診療部、	部長
森里美	モリサトミ	神奈川県立こども医療センター	総合診療部、	医長
栗原八千代	クリハラヤチヨ	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院	小児科	医長
山田不二子	ヤマダフジコ	CFJ		代表
三浦耕子	ミウラコウコ	沖縄県立中部病院	産婦人科	科長
溝口史剛	ミゾグチフミタケ	前橋赤十字病院	小児科	副部長

CACモデル事業グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職
田上幸治	タノウエコウジ	つながぐ		代表
飛田桂	ヒダケイ	つながぐ		代表
新井香奈	アライカナ	つながぐ		事務局長

MDT促進事業グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
田上幸治	タノウエコウジ	神奈川県立こども医療センター	総合診療部、	部長
木下あゆみ	キノシタアユミ	四国こどもとおとなの医療センター	小児科	医長
本山景一	モトヤマケイイチ	茨城県立こども病院	総合診療科	医長
神菌淳司	カミゾノジュンジ	北九州市立八幡病院	小児科	科長
仙田昌義	センダマサヨシ	旭中央病院	小児科	医長

CACネットワークグループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
田上幸治	タノウエコウジ	つながぐ		代表
毎原敏郎	マエハラトシロウ	尼崎総合医療センター	小児科	科長
新井香奈	アライカナ	つながぐ		事務局長

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

性虐待の被害児が受ける系統的全身診察はどこでうけられるのか
発表者：田上幸治、毎原敏郎、森里美、川口真澄

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2022.1 2.11	性虐待の被害児が受ける系統的全身診察はどこでうけられるのか	日本子ども虐待防止学会	福岡	100名	系統的全身診察の説明と神奈川県立こども医療センターでの系統的全身診察の8年間のまとめ、沖縄県の「司法面接と系統的全身診察」の現状と課題など

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

・なし

(2) ウェブメディアの開設・運営、

・なし

(3) 学会（6-4. 参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

・なし

6-3. 論文発表

(1) 査読付き（ 0 件）

●国内誌（ 0 件）

●国際誌（ 0 件）

(2) 査読なし（ 0 件）

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

(2) 口頭発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

(3) ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

6-5. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（ 0 件）

(2) 受賞（ 0 件）

(3) その他（ 0 件）

6-6. 知財出願

- (1) 国内出願 (0 件)
- (2) 海外出願 (0 件)